

三沢市コミュニティバス「みーばす」 利用者にやさしい利用環境整備プロジェクト

PJコンセプト: 「みーばす」の位置情報を運用コストを抑えながら簡易に分かりやすく伝えよう

あしあとランプって何？

直近のバスが「発車済み」か「未到着か」が一目で伝わる思いやり情報ツール

通信コスト不要
屋外ソーラー運用

利用シーン

いつもより少し遅れてバス停にやってきたA子さんとお孫さん



「あしあとマーク」と「ともしびランプ」が付いていたので、直近のバスは発車済みだと分かり、次の便まで近くの公園でお孫さんと待つことにしました。



あしあとランプを活用した利用環境デザイン

主要バス停での取組み



利用者の多い主要バス停（三沢空港、市役所）に表示機を設置してバス通過情報提供を検討

あしあとマーク（通過マーク）のみの仕様で導入

見つけた課題

- ・寒冷地氷点下における乾電池電源の限界
- ・登録できる車載機系統番号数の増強

基板改良・ソーラーパネル電源の検討

三沢病院バス待合室での取組み

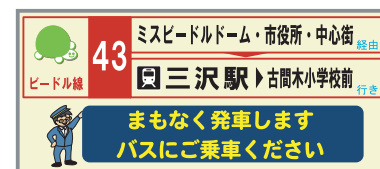
当初の現状

- ・待合室から屋外バス停まで50m → 高齢者の乗遅れ要因
- ・厳冬期の屋外バス停 → 厳しいバス待ち環境

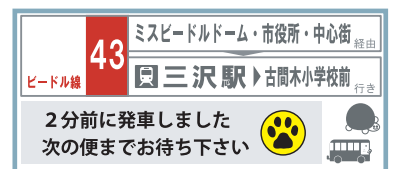
無線通信方式はそのままに、始発バスの発車案内を乗務員手動送信と待合室の大型ディスプレイで利用者に伝えよう!



接近情報提供は行わず乗務員メッセージとして運用



発車前案内



発車時・発車後案内

- ・バス乗務員の操作負担軽減の必要性
- ・始発だけでなく通過路線の対応の必要性

無線機出力アップとGPSの採用

仕様の変更・機器バージョンアップの実施

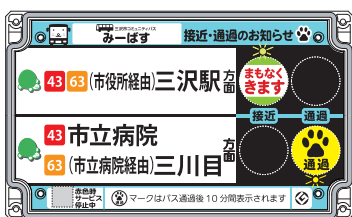
★GPSの採用と送信距離の大幅UPで接近情報提供を可能に

★登録できる系統番号数の大幅UP



設置バス停を2か所増設しソーラー電源を採用した。

あしあとマークに「まもなくマーク」簡易接近情報をプラスした仕様へバージョンアップ



数分前の接近情報提供が可能になった。(中継器なしで)

バスロケ機能



5分前からカウントダウンでリアルタイムな接近情報の提供が可能になった。

その他の機能



時刻表にバスのあしあとが残っていく機能を追加した。情報欄(デジタルサイネージ)機能を追加した。

- ・路線再編や他のツールと一体になった利用環境提供
- ・年々上昇が見られるツール利用度(アンケート調査)

PJの定量的な効果とMMの質的向上への寄与

PJメンバー

福島大学 准教授 吉田 樹

三沢市地域公共交通会議

株式会社千代田コンサルタント

ITSアライアンス株式会社

三沢市コミュニティバス『みーばす』の運行開始とあわせた公共交通利用促進の取組と効果

《三沢市コミュニティバス「みーばす」の取組》

青森県三沢市は、市立三沢病院の郊外移転を機に、平成22年3月「三沢市地域公共交通総合連携計画」を策定し、同年11月からは、従来の100円バスと路線バスを一体的に再編したコミュニティバスの実証運行を開始するとともに、利用促進のための様々な取組を進めています。

コミュニティバス「みーばす」の実証運行とあわせて、公共交通マップの全戸配布のほか、バス方向幕に運賃体系の違いを知らせる“かめとうさぎ”のイラスト掲示、バスの愛称やラッピングデザイン公募など、『市民に愛されるわかりやすいバス交通プロジェクト』を進めています。

また、『利用者にやさしい利用環境プロジェクト』では、市役所や市立病院、駅などの主要拠点に簡易型バス運行情報システム「あしあとランプ」を導入するなど、独自の取組を展開しています。

《愛称とラッピングデザイン公募》

コミュニティバスの愛称募集を行い、100通を超える応募の結果「みーばす」に決定しました。キャッチフレーズは「みさわのみーばす、みんなのみーばす」。公募企画第2弾は、みーばすラッピングデザインの募集を行い、市の特徴である航空機や市の鳥オオセッカなどを重ねあわせた作品が最優秀賞に選ばれました。



《バス停の改修》

平成24年度にバス停改修事業の第一弾として、バス停ひまわり部分のデザインを統一化しました。路線番号の色は「三沢公共交通ガイド」と整合を図り、停車する路線の路線番号と合わせ、“かめバス”“うさぎバス”のピクトグラムを表示しています。



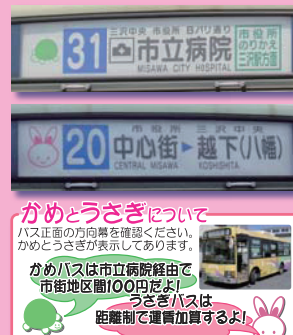
《三沢公共交通ガイド》

公共交通の利用促進を図るため、ルート図及び時刻表が一体となった、「三沢公共交通ガイド」を作成しています。ダイヤ改正時には、随時更新するとともに、市民への配布、主要施設への設置、市ホームページでの情報提供、バス車内での掲示など、広報には十分に配慮しています。



《車両方向幕》

「みーばす」と路線バスの異なる運賃体系をわかりやすく伝えるため、車両方向幕に“かめ(均一制運賃)”と“うさぎ(距離制運賃)”の2種類のピクトグラムを採用しています。今では、利用者の間で「かめバスが来たよ」と言葉が交わされるほど、“かめバス”“うさぎバス”が定着しています。



《あしあとランプ》

積雪の影響などによるバス遅延の対応として、適切な運行情報の提供を行うため、安価で導入可能なバスロケーションシステム「あしあとランプ」を導入しています。利用者がその場ですぐに知りたい直近バスの位置を「まもなくマーク」「あしあとマーク」で伝えるシンプルなシステム構造、容易なメンテナンス性が特長となっています。



《あしあとランプマルチ》

利用者が多い市立三沢病院バス停は、病院玄関から約50m離れており、冬季の厳しいバス待ち環境が懸念されていました。そこで、病院建物内の待合所にバスの発車情報を知らせる「みーばす発車案内モニター」を設置し、バス待ち環境の向上に努めています。



《オトクな2枚きっぷ》

市北部地区において運行本数及び運賃に対する地域格差への配慮が必要となっていました。そこで、コミュニティバスの運賃格差の是正と利用促進方策の一環として、企画割引乗車券「北浜木崎野線オトクな2枚きっぷ」を作成しました。北部地区と市立三沢病院を片道上限500円としています。



《みーばす乗り案内》

市民や児童・生徒等を対象とした公共交通利用促進を目的として、モビリティ・マネジメントのコミュニケーションツール「バスの乗り案内」を作成・配布しています。



《イベント開催》

地域の人々を対象に体験型利用促進イベントを開催しました。バスの乗り方や車両設備、マナーなどの紹介やクイズ・アンケートコーナーを設け、参加者には記念品をプレゼントしました。「あしあとランプ」体験や運転士の制服を身に付けての記念撮影、市内中心部を一周する体験乗車会も開催しました。



《バス停時刻表の整備》

バス停時刻表の統一性とバス利用者への分かりやすい情報提供を図ることを目的として、平成25年度にバス停時刻表の表示プレートの大規模化を行うとともに、ダイヤ・路線図と一体化した新たなバス時刻表デザインに整備をしました。



《効果①…みーばす利用者数の推移》

平成22年11月に開始した第1期実証運行以降、冬季の利用者が多い傾向にあります。本格運行移行後の半期ごとの利用者数は6万人前後で安定しており、夏季・冬季別に利用者数を見ると微増傾向で推移してきています。

《効果②…みーばすの愛称認知度》

平成22年度に公募で決定した愛称「みーばす」の認知度は、平成23年度以降増加傾向にあり、平成25年度には約5割に達しています。また、「知らなかった」との回答は約51%で、平成23年度比で29ポイント減少しており、愛称「みーばす」が定着しつつあることが伺えます。

《効果③…あしあとランプマルチの利用状況》

市立三沢病院待合所に設置している「みーばす発車案内モニター」の利用状況は年々増加傾向にあります。平成25年度の「いつも利用している」との回答は約62%で、平成22年度比で47ポイント増加し、有効に活用されていることが伺えます。

《効果④…2枚きっぷの利用状況》

平成25年4月から実証事業として開始した「北浜木崎野線オトクな2枚きっぷ」は、販売枚数・利用枚数ともに導入以降で順調に増加傾向にあります。また、北浜木崎野線全体のバス利用者数も2枚きっぷ導入前は減少傾向にありましたが、導入後に増加へ転じています。

《今後の展開》

将来的な少子高齢化など社会情勢の変化に柔軟に対応し、本市まちづくりの取組と連携した中で、地域住民・事業者・行政の三者協働による継続的議論を通じて、公共交通の効果的かつ効率的な運行改善やモビリティ・マネジメントの展開を図り、地域の皆さんとともに活力ある都市活動の実現、観光交流の促進などを支える地域公共交通網形成を進めていきます。

